

# Miyako Kitakamisanchi Museum of Folklore



## 宮古市北上山地民俗資料館

2012. 3. 26 発行

NO. 18

岩手県宮古市川井2-187-1 TEL0193-76-2167  
http://kitakamisanchi.city.miyako.iwate.jp/

### 小国分館の整備について

北上山地民俗資料館では、旧小国中学校の校舎と体育館を活用した小国分館について、昨年度から民俗資料の配置計画をたて、今年度からは実際に体験型の資料展示を念頭に資料の運びこみを始めました。

この計画は岩手大学人文社会科学部で「博物館学」及び「博物館実習」の講座を担当しておられる名久井文明氏に依頼し基本計画を立てていただきました。実際に資料を配置する作業もご指導いただきました。作業は博物館学実習生の皆さんや地元の方々にご協力いただき、これまで旧体育館を活用した収納庫に収められていた資料の一部を旧校舎の各教室に運びこみました。各教室にはそれぞれ「山仕事」「手細工」「食生活」などのテーマを設定し、資料の分類展示を行う計画です。各分類展示室には実際に手にとって見ることができる資料を用意したり、別に実習作業室も設け、いずれは体験教室開催も可能になるよう整備を進めます。また本館には展示スペースがない「郷土芸能」や「年中行事」についても写真や資料を展示する予定です。

### 小国分館整備の経過

平成 6 年	北上山地民俗資料館開館。展示しきれない約3,000点の資料を旧川井村内の複数の施設に収納。	平成18年～	資料整理作業の継続実施。隔年でガスくん蒸の実施。
平成 15 年	「北上山地川井村の山村生産用具コレクション」1,345点が国の重要有形民俗文化財に指定。	平成 21 年	9月、宮古市との合併を前に村生涯学習センターを廃止し、旧校舎を含めて北上山地民俗資料館小国分館となる。
平成 16 年	学校統合により旧川井村立小国中学校の閉校が決まり、その体育館を収納庫として活用することに決定する。	平成 22 年	1月、宮古市と旧川井村の合併。4月から小国分館の旧校舎側スペースについて活用方法の検討をはじめ。
平成 17 年	旧小国中学校体育館を民俗資料収納庫として整備。中二階・収納棚・窓面格子を設置、機械警備を導入。資料搬入後にガスくん蒸実施。およそ3,000点の資料を収納する。旧校舎は村生涯学習センターに転用。	平成 23 年	計画に沿って作業を開始する。平成 25 年までの3ヵ年計画。

計画は3ヵ年で進め、その後の一般公開については未定ですが、展示の形が見えてきた段階で見学会を開き、あわせてこれまで展示していなかった資料についても見学できるよう機会を作っていきます。



小国分館収納庫（旧体育館）の様子



小国分館分類展示用の準備の様子

## 館務実習生の受け入れ 2011.8.30～9.2

博物館などで企画・運営を行う学芸員の資格取得を目指す、岩手大学人文社会科学部の学生16名が当館で館務実習を行いました。実習生は、小国分館の民俗資料移動作業、パネル展示作業、聞き取り調査などの館内実務の実習のほか、民俗資料への理解を深めるため、雑穀畑の見学や「藁ぞうり作り」の体験も行いました。

### 館務実習の感想

**環境科学専攻 相澤麻彩さん** 2日目の聞き取り調査は主に衣類がメインだったが、実際に使われていた方のお話や実際に着ていただいた事で、ただ広げて撮影された本の中の写真よりも「もの」がいきいきと語りかけてくれたような気がして使い方なども分かった。また、お話をして下さった方の楽しそうな笑顔も印象的だった。人と人がいて、「もの」があり先の未来へつながっていくのだと改めて感じた。パネル展示も、見てくれる人の事を考えて貼り付けるのは大変難しく、パネルの配置1つでだいぶ見え方が異なる事も実感できた。

**国際文化専攻 平野里衣さん** 「藁ぞうり作り」を体験し、見ている分には簡単そうに作っているのに自分でやってみると上手くいかず、本当に難しかった。「好きでできるようになったのではなく、履くものがなかったからやらざるをえなかった」という話を聞いて、今の時代との違いをひしひしと感じた。雑穀畑の見学では、ソバやタカキミ、ダイズなどを見る事が出来た。スズメやシカなどの動物が出て作物を食べてしまうというのを聞き農業は大変なのだということを感じた。ぼったりや水車も近くで見ることができて感動した。

**国際文化専攻 田仲林太郎さん** 聞き取り調査はとても勉強になった。学芸員が失われようとする記憶を保存し、それらを伝える役割がある事を実感することができた。また、資料の話を書く事で地域の方々とのつながりを持つこともすばらしいことだと感じた。最終日の「藁ぞうり作り」では、体験学習を経験できた意味でも貴重であったが、何より楽しんでできてよかった。ここでも、「もの」とのつながりだけではなく「人」とのつながりを感じた。

岩手大学の実習生は、当館の開館準備にあたり資料整理に協力いただいたことをきっかけに受け入れており、今年で17年目です。この他、大学側から実習生の受け入れ依頼があった場合、宮古管内出身の学生を受け入れています。



小国分館パネル展示作業の様子



衣類についての聞き取り調査の様子①  
(協力：眞館ヒメ子さん)



衣類についての聞き取り調査の様子②  
(協力：因幡ユリ子さん)



見学させていただいた雑穀畑で  
(協力：高屋喜多男さん)



「藁ぞうり作り」体験学習  
(協力：荒田忠一さん、菊地務さん、湯澤孝さん、湯澤武さん)



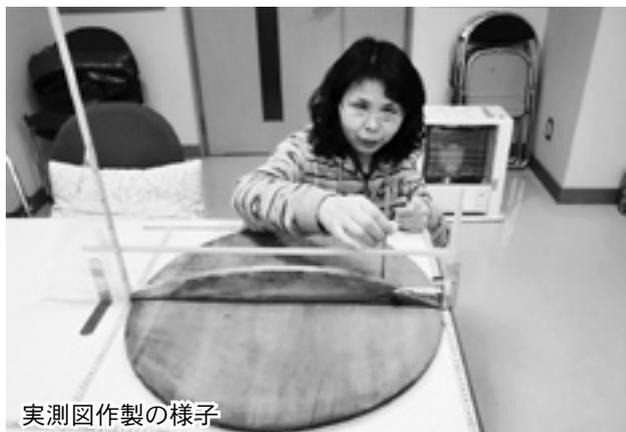
仕上げた[藁ぞうり]を履いてみました！

## 実測図などのデジタル化について

当館では、開館後まもなくの平成7年以来、所蔵する民俗資料の実測図の作製に力を入れており、現在1947点の民俗資料について実測図が完成しています。

当館で作製している実測図は、民俗資料を計測した値をもとに方眼紙に描かれた元図と、それを印刷物やホームページなどに掲載するために清書したトレス図からなります。完成した実測図は保存袋に1点ずつ整理し、さらにコピーも別のファイルに保存していますが、全て紙であるため火や水や汚れに弱く、予期せぬ災害等で失われる可能性もあります。そのため今年度から、トレス図をスキャナーで読み取り、CD-ROMに保存する作業を始めました。巻末でも実測図の役割を紹介していますが、複数の保存方法をとることで、民俗資料の情報をより確実に後世に伝えていけるよう努力してまいります。

また、並行して写真資料についてもデジタル化の作業を進めており、今後は古文書資料についても方法を検討していきたいと考えています。



実測図作製の様子

## 文化財の虫害管理について

館内の虫やカビの状況について把握するため、展示室や収納棚に虫を捕獲するトラップを設置してどんな虫が入り込んでいるのか調べたり、温湿度の変化やカビの有無を調べる虫害管理業務を今年度から開始しました。

展示室がある本館は、複合施設で密閉された空間ではないため、一年をとおして様々な虫が入り込んできます。実際に植物素材（木や布など）でできた民俗資料に害をおよぼす虫も発見されました。また、既存の学校施設を転用した小国分館は、通常は閉鎖されているにもかかわらず、特に旧校舎側に多くの虫が入り込んでおり、季節によっては湿度がかなり高くなるためカビも発生していました。これらの結果は施設の構造や運営上、当然の結果ともいえますが、今後は少しでも虫やカビの害をおさえるよう、しっかりと清掃や資料の点検を行っていく必要があります。

所蔵資料や施設内の虫害防除については、国や県の文化財保護の方針に沿って、他館の動向を見極めながら、今後もより良い方策を検討してまいります。



展示台のカビの有無を調べる様子

## 今年度の入館者数 (2月29日現在) (人)

一般	学生	児童	団体
268	3	12	53
免除・公用一般	免除・公用学生	免除・公用児童生徒	合計
91	16	41	484

## 来館者の感想 (メッセージノートより)

- 多くの民具展示に圧倒されました。山人の文化を後世に伝えていってほしいと思います。(愛媛県から震災復旧のボランティアに来られた方より)
- 2回目です。古い民具なのにきれいに保存されてとても感じがよかったです。最近薪割りをするようになって、木の文化に興味があり寄りました。またゆっくり来たいと思います。(野田村から見学に来られた方より)
- 確認したい事があり、2度目の来館です。展示が維持されているので、安心して調べ物に使えます。今後も質の高い展示を期待しています。(愛知県から見学に来られた方より)

## 北上山地民俗資料館ホームページ

<http://kitakamisanchi.city.miyako.iwate.jp/>

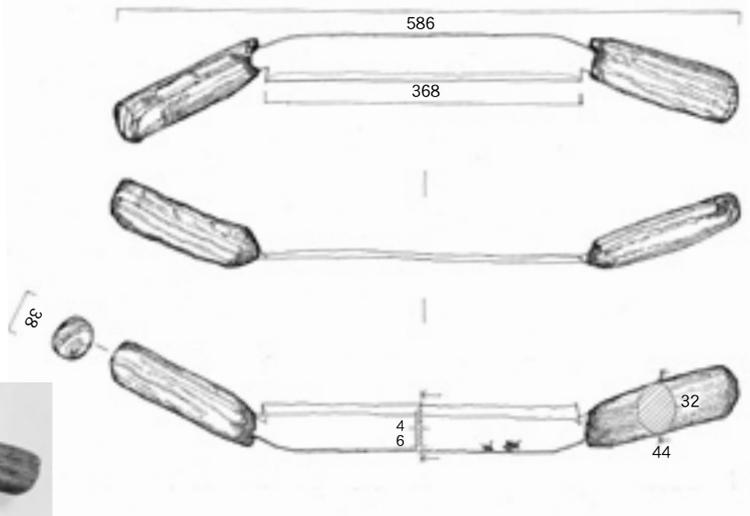
資料館だよりバックナンバー、これまでの活動、国指定「北上山地川井村の山村生産用具コレクション」などを紹介しています。

## ◆資料の寄贈 (平成23年5月～24年2月)

八木勇太様 (木挽き鋸・棹秤・ばね秤・まどり・杵)、森衛様 (蓄音器・時計・茶筆筒・柳ごおり・こおり)、因幡ユリ様 (木箱・踊りの衣装一式・もんぺ・みじか・はんどう・写真)

ご協力ありがとうございました。スペースの都合ですぐに展示はできませんが、お名前を明記し、展示資料と同様に適切に保管してまいります。

**資料名** せん  
**伝票番号** 2000  
**使用方法** 桶を作る時に木をひく(削る)。  
**備考** 昭和30年頃まで使ったもので、桶を作る時一番使う道具。自分の方に刃を向けてひく(削る)ので、危なくないように「こば(板)」を胸や腹の辺りにあてる。桶のサイズがわかるように定規(型)を使う。新一さんが20代前半の頃、[風呂こが]を作る時に使った。  
**話者** 立花新一(昭和3年生まれ)  
**調査者** 中村恵美(2012. 2. 5調査)

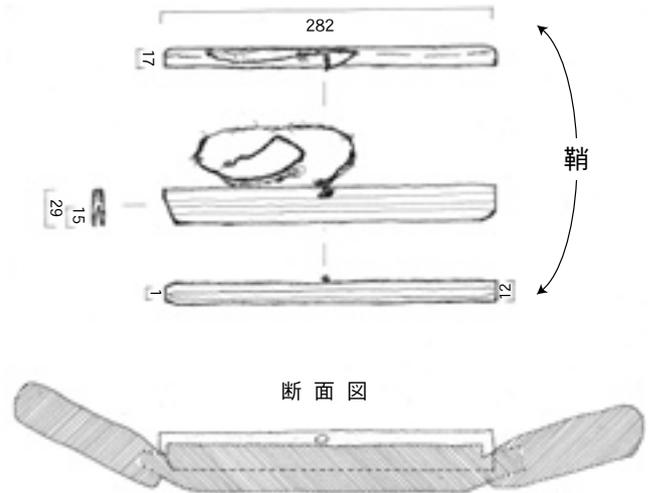


**実測図とは・・・**

実測図は民俗資料を正確に計測し図面化して記録したもので、民俗資料の素材、構造、製作技術、外形などの情報を伝達することができます。指導をいただいている名久井芳枝先生は実測図には次の3つの役割があると述べておられます。

- 記録保存資料(未来への情報伝達)
- 啓蒙資料(一般の人々への情報伝達)
- 学術資料(研究者への情報伝達)

作図者がじっくりと観察し、丁寧に仕上げられた実測図は、当館の記録として蓄積されるだけでなく、他地域や未来へ向けた情報発信の手段ともなります。作図作業は地道で労力を必要としますが、今後も当館では地域の伝統文化を記録する実測図作製を続けてまいりたいと考えています。



単位 [mm]

**民俗資料に出会って**

私は、この「せん」で初めて実測図を描きました。ミリ単位の世界で、肩こりと細かい作業の苦手な私に描けるだろうか不安でした。木目や材質の表現、形が崩れているところ、凹凸を表現するのが、とても根気のいる作業でした。苦戦しながら初めて描いた実測図なので、完成した時は達成感を感じました。

聞き取りをしたのは私の祖父で「せん」は桶になる板をひく(削る)時に使う道具で、この道具がなければ桶は作れない。昔はこうで、こんなだった…と普段口数の少ない祖父ですが、すごく生き生きと話してくれました。

実測図は写真よりも正確にその「もの」についての詳細がよくわかり、またその「もの」を使っていた「人」の記録から様々な情報が得られ伝えていくことができる。名久井先生が「もの」と「人」とのつながりはとても重要だとおっしゃられていましたが、この仕事に携わり身をもって感じました。今まで「もの」を一つの資料としてじっくり見て考えたりする事がありました。せんでしたが、民俗資料と出会い、初めて実測図を学んだ事により資料に興味を持つようになりました。名久井先生や学芸員、聞き取り調査にご協力いただいた方々から「もの」の価値や知識を教わり、今までより違った視線で資料と向き合えると思います。発見の毎日です。

民俗資料調査員 中村 恵美